

# 特定非営利活動法人 おおいたNPOデザインセンター 定款

## 第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人おおいたNPOデザインセンターという。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を、大分県大分市内に置く。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、新しい市民社会の実現に向けて、あらゆる分野や地域で活動するNPO・ボランティア団体等の公益的団体の活動基盤強化や育成することにより、又は自ら活動し、国、地方公共団体、企業、NPO等との連携協働によって、地域社会がかかえる諸問題の解決や私たちの暮らし（文化・経済・環境・教育など）の維持発展に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行なう。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 観光の振興を図る活動
- (5) 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- (6) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (7) 環境の保全を図る活動
- (8) 災害救援活動
- (9) 地域安全活動
- (10) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (11) 国際協力の活動
- (12) 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- (13) 子どもの健全育成を図る活動
- (14) 情報化社会の発展を図る活動
- (15) 科学技術の振興を図る活動
- (16) 経済活動の活性化を図る活動
- (17) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (18) 消費者の保護を図る活動
- (19) 前各号に掲げる活動を行なう団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
- (20) 前各号に掲げる活動に準ずる活動として都道府県又は指定都市の条例で定める活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次に掲げる特定非営利活動に係る事業を行なう。

- (1) NPOの活動及び運営に係る相談・助言、または推進するためのコンサルティング及びコーディネーション
- (2) NPO基盤整備のための情報発信、調査研究、政策提言及び研修等企画実践事業
- (3) 地域の活性化や課題解決のために地域の経営資源等を活用して行う事業
- (4) その他第3条の目的を達成するために必要な事業

### 第3章 会員

(種類)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会し、事業活動を推進する個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同して入会し、事業活動を支援する個人及び団体

(入会)

第7条 会員の入会については、特に条件を定めない。

- 2 入会手続きは、別に定める入会申込書にて代表理事宛申し込むこととし、代表理事は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。入会を拒否する場合は、その理由を付した書面をもって本人に速やかに通知することとする。

(入会金及び年会費)

第8条 会員は、理事会において別に定める入会金及び年会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至った時は、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき
- (3) 会費を継続して2年以上滞納したとき
- (4) 除名されたとき

(退会)

第10条 会員は、別に定める退会届を代表理事宛提出して、任意に退会することが出来る。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、その会員を除名することが出来る。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この法人の定款等に違反したとき
- (2) この法人の名誉を傷つけ、または目的に反する行為をしたとき

(拠出金品の不返還)

第12条 既に納入した入会金、年会費及びその他の拠出金品は、これを返還しない。

## 第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3名以上
  - (2) 監事 1名以上
- 2 理事のうち、1名を代表理事とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 代表理事は理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者もしくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が、役員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 特定非営利活動促進法第20条各号のいずれかに該当する者は役員になることが出来ない。
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることは出来ない。

(職務)

第15条 代表理事はこの法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 代表理事以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 代表理事に事故あるとき又は欠けたときは、代表理事があらかじめ指名した理事の順序によって、その職務を代行し、その後速やかに理事会で代表理事を互選する。
- 4 理事は理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行なう。
  - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること
  - (2) この法人の財産の状況を監査すること
  - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合は、これを総会又は所轄庁に報告すること
  - (4) 前号の報告のために必要がある場合は、総会を招集すること
  - (5) 理事の業務執行状況又はこの法人の財産状況について、理事に意見を述べ、理事会の招集を請求すること

(任期)

第16条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまで、その任期を延長する。
- 3 補欠のため、又は増員により就任した役員任期は、それぞれ前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行なわなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決によりこれを解任することが出来る。この場合、議決する前にその役員に対し弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 職務の遂行に堪えない状況にあると認められないとき
- (2) 職務上の義務違反、その他役員としてふさわしくない行為があったとき

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲で、報酬を受けることが出来る。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することが出来る。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、必要に応じて、事務局長、その他の職員を置く。

- 2 職員は、代表理事が任免する。
- 3 職員のうち事務局長は理事の兼任を妨げない。

## 第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(総会の構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(総会の機能)

第23条 総会は、次の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散及び合併
- (3) 事業報告及び活動決算
- (4) 役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (5) その他運営に関する重要事項

(総会の開催)

第24条 通常総会は、毎年1回、当年度事業終了後の3ヶ月末までに開催する。

- 2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。
  - (1) 理事会が必要と認め招集の請求を行なったとき
  - (2) 正会員総数の5分の3以上から会議の目的である事項を記載した書面又は電磁的方法をもって招集の請求があったとき
  - (3) 第15条第4項第4号の規定により、監事から招集があったとき

(総会の招集)

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、代表理事が招集する。

2 代表理事は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって開催日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(総会の議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(総会の定足数)

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開催することが出来ない。

(総会の議決)

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項に基づき通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(総会での表決権等)

第29条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

2 止むを得ない事情等で総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は、他の正会員を代理人として表決を委任することが出来る。

3 前項の規定により表決した正会員は、第27条、第28条第2項、第30条第1項第2号及び第51条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることはできない。

(総会の議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数(書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその総会において選任された議事録署名人2名以上が、署名、押印しなければならない。

3 前2項の規定に関わらず、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
- (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
- (3) 総会の決議があったものとみなされた日
- (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

## 第6章 理事会

(理事会の構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

- 2 第15条第4項第5号の規定に該当する場合等は、監事の出席を妨げない。

(理事会の権能)

第32条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び活動予算並びにその変更
- (2) 入会金及び会費の額
- (3) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第48条において同じ）  
その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (4) 事務局の組織及び運営
- (5) 総会に付議すべき事項
- (6) 総会議決事項の執行に関する事項
- (7) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する重要事項

(理事会の開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 代表理事が必要と認めたとき
- (2) 理事総数の5分の2以上から、理事会開催目的を記載した書面又は電磁的方法をもって招集請求があったとき
- (3) 第15条第4項第5号の規定により、監事から招集請求があったとき

(理事会の招集)

第34条 理事会は、代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、前条第2号、第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、理事会の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも会日の5日前までに通知しなければならない。

(理事会の議長)

第35条 理事会の議長は、代表理事がこれに当たる。

(理事会の議決)

第36条 理事会における議決事項は、第34条第3号によりあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議決は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

(理事会の表決権等)

第37条 理事会の表決権は、平等なるものとする。

- 2 止むを得ない事情によって出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することが出来る。
- 3 前項の規定により表決した理事は、第36条第2項及び第38条第1項第2号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることは出来ない。

(理事会の議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名(書面又は電磁的方法による表決者にあつては、その旨を付記すること)

(3) 審議事項

(4) 議事の審議の経過及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長及びその理事会において選任された議事録署名人2人以上が署名、押印しなければならない。

## 第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立のときの財産目録に記載された資産

(2) 入会金、年会費

(3) 寄付金品

(4) 財産及び事業から生じる収益

(5) その他の収益

(資産の区分)

第40条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産の1種とする。

(資産の管理)

第41条 この法人の資産は代表理事が管理し、その方法は理事会の議決を経て代表理事が別に定める。

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条に掲げる原則に従って行なうこととする。

(会計の区分)

第43条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計の1種とする。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、代表理事が作成し、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、止むを得ない事情により予算議決が遅延又は成立しない時は、代

表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることが出来る。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加及び変更)

第46条 予算議決後に、止むを得ない事由により予算の追加及び変更が必要になった場合は、理事会の議決を経て、既定予算の追加及び更生をすることが出来る。

(事業報告及び決算)

第47条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、代表理事が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金が生じた場合は、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第48条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(予備費の設定及び使用)

第49条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、理事会の議決をもって、予備費の設定及び使用が出来るものとする。

(臨機の措置)

第50条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借り入れ、その他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

## 第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第51条 この法人が定款を変更しようとする時は、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数の議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する以下の事項を変更する場合、所轄庁の認証を受けなければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁変更を伴うものに限る）
- (5) 社員の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に関する事項を除く）
- (7) 会議に関する事項
- (8) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき事項に限る）
- (9) 定款の変更に関する事項

(解散)

第52条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議

(2) 目的とする特定非営利活動事業の成功の不能

(3) 正会員の欠亡

(4) 合併

(5) 破産手続き開始の決定

(6) 所轄庁による設立の認証の取り消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第53条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、国又は地方公共団体に譲渡するものとする。

(合併)

第54条 この法人が合併する時は、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第9章 公告の方法

(公告の方法)

第55条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、貸借対照表の公告については、当法人のホームページ及びおおいたNPO情報バンクおんぼに掲載して行う。

## 第10章 雑則

(細則)

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、代表理事がこれを定める。

## 附 則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

代表理事	山下 莖三
理事	後藤 武敏
理事	古村 久美子
監事	高橋 賢一

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成26年3月31日までとする。

4 この法人の設立当初の事業計画及び活動予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

5 この法人の設立当初の事業年度は、第48条の規定にかかわらず、成立の日から平成26年3月31

日までとする。

- 6 この法人の設立当初の入会金及び年会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。  
ただし、平成24年度に既に前身団体である「おおいたNPO研究所」に入会金および年会費を納入した者については新たに徴収しないものとする。

(1) 正会員

入会金	個人	1千円	NPO	3千円	企業	1万円
年会費	個人	5千円	NPO	3千円	企業	1万円

(2) 賛助会員

入会金	個人(一口)	1千円	NPO(一口)	3千円	企業(一口)	1万円
年会費	個人(一口)	3千円	NPO(一口)	3千円	企業(一口)	1万円

附 則

この定款は、特定非営利活動促進法の一部を改正する法律（平成二八年六月七日法律第七〇号）の公布の日から起算して二年六月を超えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則

この定款は、令和2年8月18日から電磁的方法による会議の開催など変更し施行する。